

第44回運営会議（2005.5.10開催）結果報告		2005.5.12 庶務発信
開催日時：	2005年5月10日（火）9:30～13:00	
場 所：	ばるるプラザ 6階 第5会議室	
参加者数：	運営会議委員7名（委員長、副委員長2名、琵琶湖部会長、木津川上流部会長、猪名川部会長、利水・水需要管理部会長）、河川管理者3名	
検討内容、 決定事項	<p>1. 決定事項</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今本副委員長が猪名川部会から木津川上流部会へ、三田村副委員長が木津川上流部会から猪名川部会へ、川崎委員が利水・水需要管理部会から住民参加部会へ、水山委員が淀川部会から琵琶湖部会へ、それぞれ所属部会を変更することが了承された。 ・WGは、当面水位操作のみ設置し、委員会の審議をみながら必要に応じて新規WGの設置を考える。水位操作WGの体制については、次回委員会で審議する。 ・現地視察については、次回委員会で、地図上でのルート提示、視察や説明のポイントを提示し、委員からコメントをいただき、それを集約して管理者が視察内容を決定する。 ・5月22日の意見交換会では、寺田委員長が委員会の経過について20分程度、中村部会長が環境について1時間30分程度、今本副委員長と荻野部会長が治水・利水について1～2時間程度、川上部会長が利用について30分程度、今本副委員長がダムについて2時間程度で、それぞれ説明と意見交換を行う。 ・第46回運営会議は、6月7日（火）午前9時30分～午後1時とする。本会議では、今後の委員会、部会の開催予定と検討内容を中心に審議を行う。 <p>2. 審議内容</p> <p>（1）地域別部会・テーマ別部会の委員構成等の確認・確定について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上記の決定事項のとおり、一部委員の所属部会の変更が了承された。また、庶務より、住民参加部会副部会長に澤井委員、利水・水需要管理部会副部会長に高田委員が指名されたことが報告された。 ・次回委員会には、修正済みの各部会の委員所属一覧表を提出するとともに、テーマ別部会の副部会長が指名されたことを報告する（委員長）。 <p>（2）WGの設置について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・水位操作についてはWGを設置すべき。テーマ別部会はまさにWGであり、WGをいくつも設置することは考えていない。とりあえず、少人数で水位操作WGを設置して、早く問題点・課題を整理していただきたい（委員長）。 ・WGは必要に応じて設置すればよい。ダムの問題も部会と委員会での審議でよいのでは。 ・既設のダムの問題もある。ダムが出来ることによって、河川がどう変化したのかは検証されておらず、それが新設ダムによる環境影響に役立つのではないのか。 ・20～30年のスパンで考えると、ダムの撤去の可能性もあり、審議が必要である。 ・これまでも勉強の機会があったが、今後とも継続していく必要がある。新旧委員の意見の違いを埋めるのがまさにWGだと思う。部会では、問題点・課題が見えてきた時点で、WGを設置するか、地域別部会を活性化するかを判断すればよい。今の時点では、水位操作のみ設置してはどうか。（委員長）。 ・ダム問題はテーマ別部会に馴染むのではないか。他で議論して必要に応じて設置すればどうか。 <p>（3）委員会と地域との意見交換のあり方について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これは、委員会の役割の問題である。委員会は、住民の意見を聞きながら審議を進めた方がよいという判断で対応している。ただ、委員会に対する不満には対応していないが、その前に、新旧の委員間での意見交換が少なく、新旧の委員間での意見交換を行った後で検討してはどうか。 	

→その意見に賛成だ。委員会自身が新旧委員のコミュニケーションを図り、共通理解が出来た段階で、対応するのがよい。部会の際に、意見表明してもらう時間を多めにつくることは考えてもよいが、当面は、新旧委員間の意見交換を実施し、それまでは待っていただく（委員長）。

- ・琵琶湖部会でも同じような問題がある。区別して、委員会の役割とプロセスを理解してもらわないと難しい。委員会自身が役割をはっきりさせておいたほうがよい。
- ・委員会に対する地域からの要望については、きちんと対応しないといけない（委員長）。

（４）地域別部会の対象エリアについて

- ・各事務所管内に合わせる形で各部会の担当エリアを設定したいということは以前説明したとおり。宇治川は、天ヶ瀬ダムの貯水池まで（鹿跳溪谷を出たところまで）を淀川部会としている。木津川上流部会との境は、笠置大橋（布目川合流点の少し下流）。その他、琵琶湖部会は、従前は瀬田川洗堰までであったが、大戸川が範囲になった。次回委員会までには分かりやすい図を用意したい（河川管理者）。

（５）現地視察の方法等について

- ・実施時期は確定で、コースは調整していく。現地視察の際に、視察後、委員および河川管理者との意見交換の時間を1～2時間確保することを前提にタイムスケジュールを考えて欲しい（委員長）。
- ・具体的なルートを簡単な地図に示して、委員からコメントをいただければどうか。それを集約して管理者が判断すればよい。
→マップとセットで詳しい資料を提出する（河川管理者）。
- ・管理者が、視察と説明のポイントを示して、委員の意見を聞く機会を用意すればよい（委員長）。

- ・河川管理者の説明を聞き取りやすくするためにレシーバーを用意して欲しい（委員長）。

（６）委員会に寄せられた住民意見に関する委員会対応について

- ・会議では毎回、数人の傍聴者の方からの意見を聞き、配付資料の中にも一般からの意見を入れさせてもらっているが、一方通行であった。今後、改善する必要があると考えている。これまで先に、寄せられた住民意見にどのように対応させてもらったかということについてのまとめの文章等の作成なども行ってきたが、委員会の対応については、きちんとアナウンスする必要がある（委員長）。
- ・回答できる部分と出来ない部分があるので、整理する必要がある。住民意見の反映方法の仕組みは、住民参加部会で議論すべきと考えている。
- ・住民参加部会で検討していただいて全体委員会に提案して欲しい（委員長）。

（７）「基本高水」論争資料に関する次回の委員会での取り扱いについて

- ・この論争があつて、内容的に理解するうえでの視点をレクチャーする必要があるれば、そういう時間を設ける。5月22日の意見交換会でレクチャーすればよい（委員長）。

（８）委員間の意見交換会について

- ・5月22日の意見交換会の進め方は、最終の意見書に至るまでの議論の経緯を20分程度で説明し、各パートの論点、議論の到達点、積み残しの課題について説明する。各パートは、環境、治水、利水、利用、ダムについて、ポイントのみを説明する（委員長）。
- ・新委員の発言の時間を充分にとったほうがよい。
- ・午前中は、委員長の経過説明の後、中村部会長が環境について1時間程度で説明と意見交換を実施。午後は、今本副委員長と荻野部会長が治水・利水について1時間半程度で説明と意見交換を行う。その後、川上部会長が利用について30分程度で説明と意見交換を行い、休憩後、今本副委員長がダムについて2時間程度で説明と意見交換を行う。会には、管理者、庶務も出席（委員長）。
- ・河川管理者の出席者は、会場の制約上、30名程度で調整する（河川管理者）。

- ・説明資料、必要機材等は、前日までに庶務に連絡して欲しい（委員長）。
 - ・新委員がもらっている資料と、もらっていない資料の整理ができていないのではないか。→一部印刷物とCDで送付済み。住民対話討論会の資料、住民意見に対する委員会対応資料は、その後発送した（庶務）。
 - ・全て新委員には送付済みということは、アナウンスしておいた方がよい（委員長）。
- (9) 第41回委員会の審議内容について
- ・報告4) 庶務からの地域別部会・テーマ別部会の開催経過についての報告では、結果報告を資料として出して欲しい（委員長）。
 - ・審議5) 総合的な豪雨災害対策の推進（提言）については報告事項ではないか（河川管理者）。
→報告として欲しい（委員長）。
- (10) 委員会の運営・経費節減の提案について
- ・委員謝金でこれまでの運用と違うところは、委員による検討会、学習会が従前100%としていたものを50%にした部分。勉強の要素が強いものに対して全体委員会と同じものではまずいという趣旨である。（委員長）。
 - ・各会議等については、規約の何条に基づくという表現が必要である。（委員長）。
 - ・謝金の運用に関しては、委員会で提案し承認を受けた後、委員会の設置者である河川管理者に要請する。（委員長）
 - ・全体では会議回数を減らすことが経費削減につながり、重要である。そのために、運営会議で、必要な会議のみを開催するように検討していく。また、運営会議を委員会の直前に開催するとともに、部会前の事前打合せに委員長・副委員長も出席して、1時間かけて調整を図る。それにより、無駄な会議運営をなくしていく。
 - ・ニュースレターの合冊本製作・配布はこのとおりでよい。また、会議での使用機材関係は従前通りとする（委員長）。
 - ・ニュースレターの発行パターンは従来通りでよい。4月24日の同日開催となったテーマ別部会のニュースレターは合冊とする（委員長）。
 - ・新たな河川整備に向けてのパンフレットは、発行時期を確定することが必要。9月に発行することでどうか。第一次案に対する意見を早目に集め、7月末には文字を確定（委員長）。
 - ・白黒版、電子媒体での提供も検討して欲しい。
 - ・委員会規約も付けて欲しい。委員会の名称は、第一次、第二次でよいのでは。
 - ・委員会の経過全体の流れがわかるフローが必要である（委員長）。
- (11) その他
- ・会場での資料配付方法、および資料の内容に係わるルールは委員会でアナウンスすべきものではないが、運営会議のなかで、認識しておき、庶務がそれに基づき対応する（委員長）。
 - ・次回委員会前の第45回運営会議以降の運営会議を決定したい。委員会の審議内容と開催時期、部会のテーマと開催時期を調整する必要がある（委員長）。
 - ・第46回運営委員会は、6月7日（火）午前9時30分～午後1時とする。本会議では、今後の委員会、部会の開催予定および取り上げる課題と管理者に提供を希望する資料内容等を中心に検討を行う。
 - ・本日、用意した「各部会における「進捗状況の点検」についての今後の進め方」については、次回運営会議で説明させて欲しい（河川管理者）。

以上

※このお知らせは委員の皆様には主な決定事項などの会議の結果を迅速にお知らせするため、庶務から発信させていただくものです。